

<福祉作文の部>

優良賞

「わたしのおじいちゃん」

小里小学校 6 年 千葉 藍子

わたしのおじいちゃんは車いすを使っています。今年の 3 月にハウスの前で転んで首の所にあるけいついと言う部分をいためてしまいました。それからは、今までのように、歩くことができなくなりました。今は、おばあちゃんや、ヘルパーさんたちがおじいちゃんのお世話をしています。

五月の田植えの時、家にはおじいちゃんとわたしの二人だけでした。おじいちゃんが外に出るといいました。わたしは、いつもおばあちゃんやお母さんが「おじいちゃん、一人では転ぶとけがをするから歩いてはダメだよ。」と言っていたのを聞いていたので、わたしも「おじいちゃん、歩かないほうがいいよ。」と言いました。でもおじいちゃんは、自分で車いすを動かしてげんかんにいこうとします。わたしは、車いすで外に出る時に、スロープを使うことを知っていたので、重かったけど出してあげました。でもおじいちゃんは、スロープを使わないで、車いすからおりて、一人で歩いて外に出ました。最初は、何歩か歩きましたが、やっぱり転んでしまいました。上手に手を使うことができなかったので、頭から転んでしまいました。わたしは、びっくりして、「だれか来て！」と言いました。ちょうどその時、近所の人 came ので、おばあちゃんやお父さんをお呼びしてもらいました。すぐに病院に行っておじいちゃんは頭の傷を何針かぬいました。それからしばらくして、けがは治りましたが、前よりももっと歩けなくなっていました。

わたしは学校の授業で車いすの体験をしました。その時には実際、自分も乗ってみました。動かすことはできましたが、大変だなあと思いました。授業では車いすをおしたり、車いすに乗るのを手伝ったりはしませんでした。おじいちゃんが車いすを使うようになって思ったのは、車いすを使う人の話や車いすに乗る人をお世話する人の話をもっと聞いた方がいいということです。わたしは、おじいちゃんが外に出たいと言った時、スロープを用意しましたが結局、おじいちゃんがけがをしてしまったので、あの時はおばあちゃんやお母さんをお呼びすればよかったです。これからは、もっとおばあちゃんやお母さんがおじいちゃんをお世話するのをよく見て、それから話もちゃんと聞いていつかおじいちゃんのしたいことの手伝いができるようになりたいです。